



2016 情熱疾走 中国総体 ボート競技

選手の皆さんの健闘を称えます

2016夏

島根で情熱疾漕

ご声援ありがとうございました

来年は宮城県でお会いしましょう

シングルスカル(1x)

優勝

シングルスカル



男子 江畠凜斉(3年) 東京都 青井高校

女子 大門千紗(3年) 大分県 日田林工高校

おめでとうございます!

2016
インターハイ
島根
ボート
新聞
第3号

【発行所】
ボート競技
高校生活動
雲南・奥出雲地区

< 編集責任校 >
問合せ先
三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町
三刀屋912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

開会式の
7月28日は...

開会式を行った7月28日は毎年、出雲神話「ヤマタノオロチ」の舞台となった斐伊川の源流：船通山の山頂で「宣揚祭(せんようさい)」が行われます。山頂では、スサノオがオロチを退治した際にオロチの尾から出た剣「草薙剣(くさなぎのつるぎ)」が出土したことを記す「天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)出頭の地」の碑を見ることができます。

出雲の地での祭典にふさわしい日に大会の幕開けとなりました。

女子シングルスカル優勝の大門千紗さんは、日本ボート協会が唯一認定する「メダルポテンシャルアスリート」で、東京五輪のメダルが期待される大器。今大会でも圧倒的強さを発揮した。中学校ではラグビーでも五輪出場をめざすトップアスリートだったが、14才の時にボート協会に発掘され、早くも高校2年次、昨年5月の全日本軽量級選手権大会シングルスカルを史上最年少で制した。

一方、男子シングルスカルで2位に5秒近い大差をつけて制した江畠凜斉さんも、今年5月の全日本軽量級選手権大会ダブルスカルで、高校生クルーとして初優勝を飾った逸材。

今大会での優勝を縁に、今後二人の活躍に注目し、島根からも応援しよう。

全国から来県の選手の皆さんがボート競技の魅力を伝えてくれました!

開会式 in アスパル 7 / 28



開会に先立って、三刀屋高校吹奏楽部が「斐伊川に流るるクシナダ姫の涙」(作曲/榊屋雅徳)を演奏し、全国からの選手・監督を地域色を生かした曲で歓迎した。また、柿木瑛人さん(3年)が司会進行の大役を堂々とこなした。



選手宣誓は、松江東高校主将の山口恭平さん(3年)と、松江北高校女子主将の石橋佳歩さん(3年)。

標高200mの湖面を72艇が全166レースで 情熱疾漕

今大会で使用した72艇は、すべて主催者側が準備したものです。同じタイプの艇でレース条件を同じくするためです。さくらおろち湖に備え付けの艇では足りないため、昨年の開催地でもあった兵庫県からも搬入しましたが、一部は秋田県からも持ち込まれました。

都道府県数	全国47都道府県	
学校数	138校	
クルー数	女子シングルスカル	46クルー
	男子シングルスカル	48クルー
	女子ダブルスカル	45クルー
	男子ダブルスカル	46クルー
	女子舵手つきオールドルプル	41クルー
	男子舵手つきオールドルプル	46クルー
	合計	272クルー
選手数	女子	444名
	男子	489名
	合計	933名
監督数	173名	

1,100名の選手・監督の皆さん、
草深い出雲のコースへようこそ！



取材のお手本を示す写真部顧問

開会式後の代表者会では参加各校への各種説明があり、岸辺の湖底が浅いという地形的制約もあって、レース前練

ダム湖のコースは予想以上に好評でした
風と波のない湖面

習のコース周辺での全力漕を禁ずることも伝えられた。何かと不便を強いられることのも多かった大会だったかもしれないが、参加者へのインタビューでは次のような声もあった。

藤岡駿平さん

(宮崎県立高鍋高校3年)

Q. どこか観光されましたか？

A. 予選を通過したので、昨日(30日)は出雲大社に行ってきました。明日の決勝への進出を祈願してきました。

Q. 何も無い所で何かと不便だったでしょうか、ここのコースはどうですか？

A. 普段は海に近いコース(宮崎県富田浜漕艇場)で練

✓ 水不足が心配でした

しかし、あくまでも治水事業優先の尾原ダムであって、ボート競技のために建設されたダムではない。冬場の降雪が少なかつたこともあって、関係者は今年の大会での水不足を心配していた。

習しているの、風や波に悩まされることが多いですが、その点ここは大丈夫です。(ボート関係者ならば、内陸部のダム湖の利点は誰でも知っており、言われてみれば至極当然のことだが、我々ボートの素人は、このインタビューで初めて知った。2020年の東京オリンピックのボート競技は東京湾での開催が決定しているが、風と波の影響を受けにくい埼玉県のコースを推す声もあるようだ。)

美く咲け
君の笑顔と
努力の華



ボート競技ポスター原画
高野寛子(三刀屋高校3年)作



三刀屋文化体育館アスバルでの開会式では、地元高校生を代表して三刀屋高校生徒会長の小林昂貴さん(3年)が歓迎の言葉を述べた。

インターハイ高校生活動 (雲南・奥出雲地区)

- 【雲南市】 三刀屋高等学校
 - 【奥出雲町】 三刀屋高等学校掛合分校
 - 【飯南町】 大東高等学校
 - 【飯南町】 横田高等学校
 - 【飯南町】 飯南高等学校
- 出雲養護学校雲南分教室の皆さんにも協力いただきました



本紙の編集に係る取材・撮影に協力してくれたのは
三刀屋高校写真部の皆さんです。
石橋 冬也さん(1年)・多々納瞳美さん(1年)
松崎 愛己さん(1年)・山根 奈子さん(1年)

意識・呼吸・動きのすべてが揃った時に感じられる一体感がMAXの漕力をうむ~これは病み付きになる!

技術・体力・持久力

何よりもチームワーク!

ボート界の深い言葉

「一艇ありて一人なし」

ボート競技は究極のチームスポーツと言われる。シングルスカルを除いて、チームに一人のヒーロー・ヒロインはあり得ない。2人のダブルスカルも5人の舵手つきクォドルプルも、息を合わせてより早く進んだ艇に栄冠が輝く。仲間を思いながら両手・両足・全身でリズムを刻み、それぞれが役割を果たした「一艇」に栄冠が輝く。

話題

今大会の女子ダブルスカルで8位となった島根県立江津工業高等学校では、毎年6月に近くを流れる一級河川江の川で「校内レガッタ大会」を開催する。33回目を迎えた今年は男子27クルー、女子7クルー、教職員1クルーの合計35クルーが出場して盛り上がった。



クラスの団結力で全力漕いで一体感を感じる、そんな校内大会が羨ましいですね。



女子ダブルスカル W2 x 決勝



シングルスカルで競われた6月の第14回全日本ジュニア選手権大会3位の松井友理乃さん(3年)と5位の宇都宮沙紀さん(3年)がコンビを組んだ今治西高校(愛媛)が、最後は4秒近い大差をつけて圧勝した。

女子舵手つきクォドルプル W4 x + 決勝



外側5レーン小松川高校(東京)が早いスタートで750m過ぎでは大量リード(写真上)。この後、手前3レーン加茂高校(岐阜)が約1.2秒差まで猛追したが、ゴール前で振り切って小松川高校が優勝した。

男子舵手つきクォドルプル M4 x + 決勝



死力を尽くして意地のローイング... 女子のダブルスカル優勝に続けと今治西高校が男子舵手つきクォドルプルでも750m付近から一歩リードしたが、距離1,000mフィニッシュライン直前の僅差の勝負を制したのは...

黒沢尻工業高校(岩手) 3分25秒57

今治西高校(愛媛) 3分25秒67

その差わずか100分の10秒差の大接戦は見応え十分だった。力の限りを尽くした勝負に賛辞を贈りたい。



レース後に、気絶または気絶寸前になるまで全力を使い果たし、動けなくなる状態をローアウトと言います。今大会でも同じような姿がありました。

男子ダブルスカル M2 x 決勝



小見川高校(千葉)の越川智宏さん(3年)・木村太一さん(2年)は2位に3秒以上の差をつけて優勝した。

前日まではほぼ無風状態だったが、最終日を迎えると徐々に強くなった向かい風が各クルーを悩ませた。

メモ

高校のボート競技 練習やレースに適した水域、用艇やオールなどを必要とするため、全国的に中学校のボート部は少ない。このため、多くは高校進学後から競技を始める。成長期にある子どもの骨格形成への配慮により、高校では2001年からスウィープ種目(各自が大きい1本のオールを漕ぐ)が無くなり、舵手つきクォドルプル、ダブルスカル、シングルスカル(各自が小さい2本のオールを漕ぐ)のみとなった。インターハイは千メートル、全国選抜は2千メートルで競われる。

黄色いTシャツ姿は、島根県の生徒補助員です。仕事の内容を聞きました。

Q. 皆さんは何やってるんですか？



水不足・水位低下が心配でした

尾原ダムを管轄する国土交通省出雲河川事務所(尾原ダム管理支所)のご協力で大会時のダム水位を保つことができました。

会場に決まった時から
大会時の水位低下
心配していました！

会場の一角で、元松江北高等学校校長の河原一朗先生の姿を目にした。今大会の会場が尾原ダム湖に決定した当時に島根県高体連ボート専門部の部長を務め、当初から大会時の水不足を心配していたそ

国土交通省出雲河川事務所のご協力に感謝します
(尾原ダム管理支所)

うだ。競技初日は、「ずっと心配だったので、自分の目で確かめに来た」とのことだった。ダムは梅雨を迎える頃には洪水防止のためにいったん水位を落とすが、今年は梅雨時も梅雨明け後も比較的雨が少



「ご来場の皆様には節水への協力ありがとうございました



尾原ダムを管轄する国土交通省出雲河川事務所のご厚意で、ダム直下につながる気温15度の監査廊を公開して頂きました。4日間で550名の皆さんが涼しさを求めて訪れました(写真の入口の奥からエレベーターで降りました)。

ボランティア(生徒補助員5校488名) 水面下で繋がり輝いた雲南・奥出雲の仲間たち

岸本琢磨さん・内田達也さん
(横田高校2年)

「総合受付は、今日(7/31)は先生のほか生徒5人で担当しています。駐車場の案内も多いですね。プログラムの販売や視察に来られた方にIDカードも発行しています。午前中だけで20人分は発行しました。シャトルバスが20分ごとに着くので、その時はお客さんも多くなります。」

田部里奈さん(大東高校2年)「ボートの配艇・返却

確認をしています。ボートに触れることはありませんが、不具合が無かったかもチェックして良い状態に保てるようにしています。」

三上翔さん(飯南高校2年)

「IDカードを持つた選手や監督、補助員の皆さんにスポンサーさんからのサンプリング(無料ドリンク)提供しています。3班交替ですが、この暑さで次々と来られるので、2L入りペットボトルで今日だけでも何百本出たか分からない位忙しいです。何とか頑張ります。」

桑原花菜さん
(三刀屋高校掛合分校3年)

「今日(開会式前日7/27)の公式練習日は、弁当の配布と空き箱の回収を担当しました。食中毒が心配で、保健所さんも様子を見に来られました。11時半からの配布は短時間に集中するので大変でしたが、もっと大変だったのは、選手の皆さんから午後2時までに回収した弁当の空き箱の数のチェックでした。早めに食べてもらい、持ち帰りがないようにするためです。駐車場で頑張っている仲間もいます。3年生全員で参加しました。」



駐車場の場所を聞く来場者に、テントの前に出て見事な案内ぶりでした横田高の内田さん。おもてなしの心が嬉しい。



笑顔は最高のおもてなし!三刀屋高の岡田さん



曾田恵梨奈さん(横田高校2年)

「二日連続でゴミ収集やトイレ掃除を担当しています。朝のスタート時からしばらくは余裕がありますが、いったん動き始めると仕事が集中して大変です。外の簡易トイレには、給水車からの水を定期的にバケツで何杯も補給しています。暑くて重くて大変です。」



「二日連続でゴミ収集やトイレ掃除を担当しています。朝のスタート時からしばらくは余裕がありますが、いったん動き始めると仕事が集中して大変です。外の簡易トイレには、給水車からの水を定期的にバケツで何杯も補給しています。暑くて重くて大変です。」



話題

世界に挑戦する高校生アスリートを応援しよう!

大会前 今大会の女子シングルスカルで1位となった大門千紗さん(大分県立日田林工高校3年)は、インターハイ前の6月に熊本県菊池市で開かれた全日本ジュニア選手権大会の女子シングルスカル(距離2km)で2位に15秒、5艇身の大差をつけて優勝した。

日本ボート協会が2020年東京五輪のメダル獲得を目指して育成強化する「メダルポテンシャルアスリート」の第1号の大門さんは身体能力が突出。これまで国内の大会で勝利を重ねてきたが、6月のジュニア選手権大会での優勝は格別だったという。大会前に右脇腹を痛めてレースに臨んでいたからだ。「けがと闘いながらの勝利。ほっとしたし、精神的にすごく自信になりました」とマスコミの取材にコメントを残した。



今大会では

距離1kmで競われる今大会決勝でも、2位に3秒以上の差をつける圧巻の勝利だった。

Q・どんな仕事を担当していますか?
A・棧橋で、帰ってきたボートの陸揚げを手伝っています。休憩はありますが、炎天下で大変です。

島根県内のボート部員

Q・選手の気合や応援がすごいです。本気で泣いて、喜んで全力を出して頑張っていて素晴らしいです。感動しました。参加して良かったです。



大テントの横にはもう一つ大きなテントがありました。「うなん広場」と名付けられた雲南地区・奥出雲地区を多面的に紹介するコーナーでした。



黄色いシャツの写真部員がインタビューしました。

(新聞部がないため)



滋賀と兵庫から4人で来県の皆様
Q・どなたの応援ですか?
A・孫の応援に来ました。琵琶湖で中学校時代から頑張っていました。
Q・どこか観光に回られましたか?
A・今夜はもう帰りますが、昨夜は(雲南市三刀屋町の)峯寺に泊まらせていただきました。
(同木次町の)「健康の森」や「おろち湯つたり館」にも寄りましたよ。木次線にも乗ってスイッチバックを見ました。



関東から来県のご夫婦
Q・どなたの応援ですか?
A・息子の応援です。高校の入部体験で気に入ったようで、1年次から続けてきました。
Q・どこか観光に行かれましたか?
A・出雲大社に行っていました。これから水木しげるロードに寄ってから飛行機で帰ります。



岩手県立宮古高校の皆さん
Q・競技を始めるきっかけは?
A・父がボートをしていました
A・体験入部が楽しかったのだから練習したんでしょうね。(いいえ、開会式前日に初めてダムに来て打ち合わせをした程度です)エツ、凄い!大人がアナウンスしていると思ったらくらい、本当に上手いです。
A・父がボートをしていました
A・体験入部が楽しかったのだから練習したんでしょうね。(いいえ、開会式前日に初めてダムに来て打ち合わせをした程度です)エツ、凄い!大人がアナウンスしていると思ったらくらい、本当に上手いです。
A・大会前はスタートを改善することを考え、みんなでイメージを合わせることに集中してきました。結果は残念でしたが(女子舵手つきクォドルブル準決勝進出は立派です)、中味は良かったです。自分たちなりに成長を感じることができました。
Q・どこか観光に行かれますか?
A・もう出雲大社と松江城に行っていました。

取材へのご協力、ありがとうございました

県内出場校	監督	わずか4校で健闘の島根県出場選手		
松江北	高松芳弘	男	1	松崎匠之介
	北浦正之	女	8	平井麻友香 山口愛莉 立石美苗 宮廻那智 義田千晴 舟塚千敬 石橋佳歩 入江真由
松江東	佐藤秀人	男	9	安部洋平 高木陽大 田中鉄郎 谷口海斗 吉田匡希 岩成悠翔 永海武 山口恭平 吉原瑛佑
		女	8	安達琉香 土江恵音 小堀亜子 下村夏紀 金山千紘 清水智子 浮田梨花 林希美
江津工業	沖田照晃	男	1	安本大輝
		女	2	藤田咲良 沖田海里
松江高専	一箭カサネトビ	男	8	岩谷燎 久保田祐介 寺戸綾佑 山口輝秋 和田武 白子喜悠 島谷晴 土屋諒太
		女	1	中村愛梨

「大会には出場しませんが、ボート部員として大会の補助員を務めています。大会の本番前から1週間泊まり込みです。私たちもこの大会に出場できるように、普段からMAXの潛力を心がけていると思います。」

吉原里菜さん(1年)
田中杏奈さん(2年)
(松江東高校ボート部)



ママやジジジを連れて、監督を務めるパパを応援に来た未来の佐藤選手。高校生を叱咤激励する小旗(写真)を振る姿が大器の片鱗をうかがわせた。

島根の高校生 底力を示す時がきた!

インターハイ出場前の島根県勢
島根県高校総体の翌週には、山口県下関市で開催された第60回中国高校選手権に出場し、沖田海里さん(江津工業)が女子シングルスカルを、山口恭平さん(松江東)が男子ダブルスカルを制し、夏に向けて期待が膨らんだ。
さらにその翌週には、島根県高校総体の翌週には、山口県下関市で開催された第60回中国高校選手権大会に県代表選手が出場し、全国レベルの選手の力漕に刺激を受けた。大会はU19選考レースを兼ねたシングルスカル2,000mで争われ、男女各78名、計156名が出場し、山口恭平さんが総合13位と健闘した。

来年への期待膨らむ江津工業の1、2年生クルー



最終日の女子ダブルスカル準決勝2組で2着の江津工業高校(2年藤田咲良さん・1年沖田海里さん)は決勝進出は逃したが、1・2年生のクルーで8位と健闘し、今後への期待が膨らんだ。



女子舵手つきクォドルブルの松江東高校は、予選1組3着で準々決勝に進出した。

男女ともにダブルスカルで 8位と健闘



男子ダブルスカルの松江東高校の山口恭平さん(3年)・吉原瑛佑さん(3年)のクルーは準決勝4組の2着で惜しくも決勝進出ならず、順位決定戦の結果8位となった。

女子シングルスカルでは、林希美さん(松江東2年)、中村愛梨さん(松江東3年)がともに予選各組2着で準々決勝に進出した。



レース後の姿が全力漕の証し

男子舵手つきクォドルブルの敗者復活戦4組でトップとなった松江高専は、3日目の準々決勝に駒をすすめた。





思いの縁
水面下で
つながって
漕ぎだす大輪

お疲れサマーでした!



道の駅「おろちの里」からスタート地点をのぞむ



標高200mの湖面を72艇が全166レースで情熱疾漕!

新学期に向け アテンション...GO!

「Attention Go!」はボート競技のスタートの合図です

スタート直後はトップスピードにのせるために全力漕する。見所の一つだが、ゴール地点からは1km先でよく見えない。



大会関係者の一人が3日目、4日目と、「奇跡だ。ここまで何事もなく進んでいるのが奇跡だ。」と口にした。それは、大会を支える地元高校生への感謝の気持ちを表す言葉でもあり、生徒を引率した学校関係者としても、同じ思いだった。大会本番中だけでなく、事前活動から携わった雲南・奥出雲地区5校、出雲養護学校雲南分教室の皆さんに最大の賛辞を贈りたい。



熊本地震復興支援募金・販売活動へのご協力ありがとうございました。地震後の6月には、熊本県で第14回全日本ジュニアボート選手権大会を開催していただきました。熊本県の皆さんにも取材を何回か試みたのですが、会場内には「熊本」の文字が入った応援シャツの姿も多く、声をかけても実際には熊本以外の方ばかりで、お話を聞くことができませんでした。ありがとうございました。



裏方が裏表紙を飾ります!

ボート部員以外で競技4日間

皆勤は放送担当のみ

三刀屋高校放送部の2年生3名は、毎朝7時すぎに学校前をバスで出発し、競技の4日間を皆勤スタート時の選手紹介500m通過順位 フィニッシュライン通過後の着順位」を分刻みで繰り返し放送するハードな活動だったが、交代で務めた1年生の4名も含めて、皆が緊張感を持ちつつも楽しみながら業務をこなした。

三刀屋高校放送部部長の高見ひのめさん(2年)は表彰式・閉会式の司会進行も務めた。



三刀屋高校書道部の妹尾有真さん(3年)は、4枚の「文部科学大臣賞」の名入れを担当。競技が終了して皆がホッとしている頃、大臣の公印入りの賞状を前に、一枚も失敗が許されぬ緊張が続いた。



このご縁を大切に、またしまね雲南・奥出雲地区へお越し下さい



大テントの中で表彰式。写真は女子舵手つきクォールドブルの賑やかな記念撮影。

2016 情熱疾走 中国総体 ボート競技出場・応援記念切符

さくらおろち湖 島根県内どこでも

料全 使えま肝円
発売日以降永久有効
途中下車は島根県内のみ有効

28.8.25日 全国津々浦々



東京オリンピック・パラリンピックの招致プレゼンで国際的にも有名になった言葉が「おもてなし」。五輪規模に限らず、今日では集客を伴うイベントの成功の大きな鍵を握るのは、迎える側の「ホスピタリティ」(おもてなしの心)にあるといわれ、企業の経営理念にも通ずる。近年のTV番組では、外国人が日本の文化・伝統・技術等に惹かれて感嘆する場面が数多く紹介されるが、魅力のバックボーンには、今に始まったわけでもない日本人の持つ細やかな「気遣い」や「ふるまい」が見え隠れする。インターハイの地元開催でも、高校生が各担当場所、目立たない所で、まじまじとした気遣いをみせる姿が嬉しかった。秋は地域での祭りやイベントが目白押し。高校生がかかわる場面も多い。ホスピタリティ溢れる仕掛け作りで参加者を温かく迎え、また来たいと思わせる、そんな仕掛けを一緒に考えることは、地域づくりの姿勢にもつながる。高校生が主役であると同時に迎える側ともなっていて、まずは新学期各校の学園祭が例年以上に盛り上がることに期待したい。(ボート競技の魅力伝える伝道師記)